

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		食品開発科学科			
科目名称	環境保全型農業論						授業形態	講義		
科目コード	306400	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブラーニング		
担当教員名	山口 健一								ICT活用	
授業概要	<p>健康な生活を支える‘食’の多くは、農業や園芸生産により生み出されている。しかしながら、現代農業では、生産性や経済性を追求するあまりに作物や家畜の生産活動が環境やヒトの安全に影響を及ぼしている。本講義では、慣行農業の問題点を整理するとともに、農業・園芸生産の仕組みおよび問題の解決方法を学び、21世紀の農業・園芸が進むべき方向を理解することを目的とする。</p>									
関連する科目	<p>授業15回中の3回程度は、体験学習として環境園芸学部附属フィールド教育センター等の野外で開講する。受講生は活動グループを編成し、担当教員およびSA、技術職員とともに環境保全型農業をアクティブラーニングとして体験する。</p>									
授業の方法と進め方	<p>毎回の授業を口頭でレクチャーしながら、要点を板書する。また、重要箇所については、データ等関連する資料を配布して説明する。受講生は毎回授業ノートを作成し、配布資料をファイリングしてすすめていく。15回授業の中で3回程度は、体験学習として屋外で環境保全型農業を体験する（アクティブラーニング）。</p>									
授業計画【第1回】	<p>01. 農業と多面的機能〔1〕 作物生産と家畜生産の仕組みと機能を学ぶ。</p>									
授業計画【第2回】	<p>02. 農業と多面的機能〔2〕 農業が持つ種々の機能について学ぶ。</p>									
授業計画【第3回】	<p>03. 慣行農業の問題点〔1〕 農業 農業用薬剤と農業が食に及ぼす影響について解説する。</p>									
授業計画【第4回】	<p>04. 慣行農業の問題点〔2〕 肥料 肥料の役割と環境に及ぼす影響について解説する。</p>									
授業計画【第5回】	<p>05. 慣行農業の問題点〔3〕 家畜排せつ物 家畜生産の現状と排泄物に起因する環境負荷について解説する。</p>									
授業計画【第6回】	<p>06. 慣行農業の問題点〔4〕 リサイクル 農業から排出される有機性廃棄物とその利用について解説する。</p>									
授業計画【第7回】	<p>07. 農業と地球環境〔1〕 農業生産活動が地球環境に及ぼす影響について学ぶ。</p>									
授業計画【第8回】	<p>08. 農業と地球環境〔2〕 地球の環境変動が農業に及ぼす影響について学ぶ。</p>									
授業計画【第9回】	<p>09. オーガニックファーミング 国内外の有機栽培の動向について学ぶ。</p>									
授業計画【第10回】	<p>10. 日本の有機農業 日本の有機農産物や特別栽培農産物について学ぶ。</p>									
授業計画【第11回】	<p>11. 環境保全型農業技術 環境に配慮した農業で実践される農業技術について解説する。</p>									

授業計画 【第12回】	12. みやざき農業 宮崎県の農業生産の特徴と主要作物について解説する。
授業計画 【第13回】	13. 体験学習〔1〕 環境保全型農業の実践を野外で体験する。
授業計画 【第14回】	14. 体験学習〔2〕 環境保全型農業の実践を野外で体験する。
授業計画 【第15回】	15. 体験学習〔3〕 環境保全型農業の実践を野外で体験する。
授業の到達目標	‘食’を支える農業の仕組みについて理解する。 みやざき農業の特徴（作物生産・家畜生産）を知る。 21世紀に求められる環境保全型農業について理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学習 【予習】	次回の授業項目をアナウンスするので、図書室等を利用して各自で予習を行う。(30分程度)
授業時間外の学習 【復習】	授業ノートおよび配布資料を参考に、受講生各自で復習する。(1時間程度) なお、不明な箇所については、授業の前夜やオフィスアワー等を利用して担当教員に質問すること。
課題に対する フィードバック	受講生からでた授業の質問およびその回答については、授業中に適宜公開して受講生全員で共有する。 野外での体験学習を生かして、受講生が担当教員、SA、技術職員とアクティブラーニングをすすめる。
評価方法・基準	定期試験(80%)を実施し、課題提出および受講態度等(20%)を含めて総合的に評価する。
テキスト	授業に携帯する市販の教科書は特に定めない。 授業内容に関する資料や参考となる図書を都度配布・紹介する。
参考書	授業の進展にそって、関連する参考書や資料等を適宜紹介する。
備考	座学の講義が中心であるが、授業の一部を環境園芸学部附属フィールドセンターや綾町の有機栽培圃場など野外での農業体験学習を行う。体験学習の日程については、授業開始前に案内する。